



食環協 ニュース123

編集／発行 公益社団法人食品容器環境美化協会

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階

TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 HP <http://www.kankyobika.or.jp>

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第14回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

去る1月31日（金）、「浅草ビューホテル」（東京台東区）3階「祥雲の間」において「第14回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。14回目を数える今年も、表彰校の児童生徒および教職員、地域住民を始め、行政や飲料団体関係者、各地域の報道機関等が多数参加して行われ、会場は功績を称える盛大な拍手とともに温かい祝福ムードに包まれました。

この表彰は、環境美化教育に独創的、継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、42都道府県から推薦を受けた小・中学校42校の中から、審査会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校32校の表彰校については、P 9に掲載されています。



表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の構成団体であるコカ・コーラ協会の後藤由美副会長が、所要で欠席した当協会の末吉紀雄会長のあいさつを代読、表彰事業の歴史や意義などについて述べました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容をスライド映像で紹介。各校の児童生徒が地域住民と連携して、積極的に環境美化活動に取り組む様子が動画やスライドを通して披露されると、参加者は画面に見入ったり、メモをとったりしながら熱心に視聴していました。

賞状・副賞授与に続いて、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇し審査のポイントや講評に触れながら、「学校のまわりの地域だけではなく、愛情の交流ともいえる共感性を持って日本全体に普及啓発させていくことが重要」であることを最後に強調しました。



また、来賓として出席された文部科学省の平田容章氏、農林水産省の長野麻子氏、環境省の大竹敦氏からは、「環境教育や地域と取り組む美化活動を通じて児童生徒が成長し、今後も継続されることを期待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、東京スカイツリーが一望できる28階「ベルヴェデール」に場所を移し、なごやかに懇談会が行われました。コカ・コーラ協会の後藤由美副会長のあいさつ並びに乾杯の後、懇談会がスタートすると、参加者の各テーブルでは食事や飲み物を囲みながら、自己紹介したり活発な意見が飛び交ったりと、たいへんな盛り上がりを見せていました。途中、受賞校の児童生徒によるスライドを使った活動紹介があり、中には衣装や小道具を使って披露する学校も登場し、会場を大いに沸かせていました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

～地域が屋根のない学校になり、共感性を持って活動を発信～

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子氏



今年は、各校の活動自体が地域の一員として自らの学びに結びついている精力的な取り組みが受賞しました。地域と一体化した運動に加え、本継承事業の目的であるアルミ缶やペットボトル回収などの環境美化活動も積極的に実践しており、さらには学校の授業と連携した「ふるさと学習」にまで発展していることが高く評価されました。これらの活動は、具体的な科学的根拠を踏まえるのはもちろんのこと、地域住民と一体感を醸成していきながら、地域が屋根のない学校になることが大切だと思っています。また、学校の周辺の地域だけではなく、活動への共感を広く得ることも重要です。いわば、愛情の交流ともいえる共感性をもって発信していくことがなによりも大事であると、私も今回の活動を通して知り、よりいっそう深く学ぶことができました。

～環境教育を通して児童生徒が成長することを期待～

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 専門官 平田 容章様

文部科学省は、皆さんが自分でいろんな知識を身に付けて、自分で考える力、他人を思いやる心、たくましく生きるための体力や健康、生きる力を育むことができるように、勉強の内容や学習の方法をよりよくして、学校の先生方を応援するよう努めています。皆さんの取り組みは、この生きる力を身に着ける上で、日本中の学校のお手本になると思います。学校の先生方、保護者や地域の方々、その他多くの方が協力してくれたこと、学校の先輩方が長年続けてくれたこと、それらがすべて評価されて、今日の皆さんの表彰につながったということがよくわかりました。そのような方々に対する感謝の気持ちを忘れずに、今度は皆さんが後輩たちに活動の楽しさややりがいを教えてあげてください。今後とも、環境教育の取り組みを支援して参ります。



～もったいない気持ちを大事に地域一丸となった取り組みを～

農林水産省 食品産業局 バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室 室長 長野 麻子様

農林水産大臣賞を受賞した麻里府小学校では、“食と農”をテーマにした活動を通して、食べることは生きることであるということをもっと習得されていました。サツマイモなどの栽培に堆肥を使用しながら、小さいころから食べ物ができる過程を体感するなど、大事な成長の糧となるこの活動に取り組んだ子どもたちは、将来素敵な大人になるだろうと私は期待しています。日本には「もったいない」という言葉があります。地球の人口は増加の一途をたどり、2050年には90億人を超えるといわれています。今の生活をずっと続けると、自然も資源もエネルギーも足りません。皆さんの活動は、もったいない気持ちを大事にしながら、地域が一丸となって一つひとつ地道に取り組んでいる素晴らしい活動です。これからも地域と協力しながらぜひ継続して取り組んでください。



～地域から全国に広がる環境保全活動がいちばん重要～

環境省 大臣官房 廃棄物リサイクル対策部企画課 リサイクル推進室 室長補佐 大竹 敦様



皆さんの取り組みを映像で拝見しまして、私もたいへん感心されました。環境省では、循環型社会の推進ということでリデュース、リユース、リサイクルという3Rをはじめ、生物多様性などの自然環境保全や、地球温暖化防止の取り組みを進めています。そうした中で、皆さんの活動は、まさにその最前線にあることを認識しました。環境保全は、皆さんの活動が周りの地域に広がり、さらには全国に広がるのがいちばん重要なことだと私は考えています。その活動を少しでもサポートできるように、環境省はこれからも循環型社会の推進や生物多様性保全、自然環境保全、環境教育にも力を入れていきたいと思えます。皆様におかれましても、引き続き、今の気持ちを忘れずに環境保全に対してご尽力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

地域の環境や資源を守る活動で児童の郷土愛育む

文部科学大臣賞 ^{ひろの} 岩手県 ^{しゅくのへ} 洋野町立宿戸小学校



三陸の豊かな海を望む同校では、地域の環境や資源を活かした取り組みが盛んに行われている。環境保全を身近な問題として捉え、児童会やボランティア委員会の企画・運営により、平成12年から始まったのが「アルミ缶回収活動」。児童が自分の家庭でためておいたアルミ缶を学校に持参し回収、業者に買い取ってもらう取り組みで、そこで得た資金は、社会福祉協議会などに全額寄付。年10回にも及ぶ児童の自主的な活動に、刺激を受けた地域住民もアルミ缶を学校に持ち寄るなど、活動の輪が広がっている。また、学校周辺や海岸を清掃する「ごみゼロ運動」を展開することで、自分たちの地域は自分たちの手で守るという強い思いが育っている。さらに、特産物のウニや海を守るために、漁師の協力のもと、児童は7年前から「ウニの森づくり植樹祭」に参加、これまでに広葉樹を約8300本植樹した。身の回りの環境美化活動を契機とした住民とのつながりや、地域の特性を生かした体験学習が、児童の郷土愛を育てている。

岩手県洋野町立宿戸小学校の皆さん

「アルミ缶回収やごみゼロ運動の取り組みが認められて、大きな受賞につながったことをうれしく思います。そして、私たちの町がきれいになったことをとても誇らしく感じています。今後、ボランティア委員会でもアイデアを出し合いながらさらに活動を深めていって、下の学年へとつなげていきたいです」



岩手県関係者および岩手地方連絡会議員 みちのくコカ・コーラボトリング 宝木 康人氏 (写真右)、佐々木 均氏 (写真左)

「こういう大きな賞を頂いたことは地域にとってもたいへん励みになり、全国にアピールできて非常に光栄です。今回の取り組みは、子どもたちの活動と地域の活発な交流やつながりが評価されたと思いますので、皆さんと喜びを分かち合いたいです」



地域を元気にする花いっぱい運動で自主性伸ばす

農林水産大臣賞 山口県 田布施町立麻里府小学校

穏やかな瀬戸内海を望み、汽水河川の桜川が校地近くを流れる豊かな自然が広がる同校では、その恵まれた環境を生かした美化活動が活発に行われている。昭和44年から始まった「花いっぱい運動」では、始業前の15分間、全校児童が校内の花壇の手入れを実施。四季折々の花々が美しく咲き誇る様子を楽しみにしている住民からは、感謝の声とともに花の苗や種が続々と学校に届くなど、支援体制も整っている。こうして住民との連携が深まり、地域への愛着が増したのを機に、児童たちは昭和59年から「麻里府海岸・桜川清掃活動」に参加、保護者とともにペットボトルや空き缶、漂着ごみを拾い、分別する取り組みを始めた。さらに、平成元年からは、PTAや住民の協力のもと、「アルミ缶回収」を開始。児童が率先して家庭でためておいたアルミ缶を学校に持ち寄ったり、登下校中にゴミ拾いを自主的に行ったりする光景が見られるようになった。環境美化を通じて、地域の自然を守り、感謝しようという気持ちが児童に芽生えている。

社団法人 食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 農



山口県田布施町立麻里府小学校 学校長 谷岡 康幸様

「小さな学校がこのような素晴らしい大きな賞をいただいたことに心から感謝申し上げます。これまで、時代と共に膨らんだりしぼんだりしながら45年間続けてきた活動ですが、今後も、自然に感謝しながら、子どもたちに今できることを見つけてもらって新たなことにも取り組んでいってほしいと思います」



山口県田布施町関係者および山口地方連絡会議員
大塚製薬 山口出張所 所長 長曾我部 茂氏（写真左）

「同校の花いっぱい運動は、花を育てることで地域の方とつながっているだけではなく、地区の活性化にも結びついています。花を通じて子どもたちの心も育まれており、見ている私たちも心が温かくなります。今回、子どもたちが長年にわたって活動している取り組みが評価されてたいへんうれしく思っています」

生徒独自の美化活動が地域間・世代間交流を生み、 まちが賑わう

環境大臣賞 埼玉県 新座市立新座中学校



県の指定史跡で、地域の貴重な歴史的文化遺産でもある野火止用水を継承するために、平成7年から「野火止クリーンキャンペーン」を同校の発案で開始した。その翌年より、市教育委員会や地域ボランティアも加わった市の一斉清掃キャンペーンに発展。現在も、同校の奉仕委員会や生徒会が主体となって進められている活動内容は、多岐にわたる。事前にごみの落ちていた状況をチェックし、住民に聞き取り調査を実施、朝会で全生徒に現状報告しながら、クリーンキャンペーン参加を呼びかける。その後、ボランティア団体や市、地域住民たちと打ち合わせを開催し、各方面との意識の共有を徹底。当日の清掃では、生徒や住民、事業所・団体等で構成された班ごとに活動するなど、地域間・世代間交流が積極的に図られているのが最大の特徴だ。活動終了後は、住民を交えた反省会を開催、感想文集も作成し参加者全員に配布。地域からは、感謝の声が生徒たちに寄せられている。同校が独自で始めた美化活動が、まちづくりに波及効果をもたらしている。

埼玉県新座市立新座中学校の皆さん

「今まで先輩が築きあげてきた活動を、私たちの代でも続けて頑張ってきたから受賞できました。今回の受賞は、野火止クリーンキャンペーンが全国に知れ渡るきっかけともなり、たいへん光栄に思います。後輩の皆さんには、これからもこの活動や他のボランティア活動を続けていってほしいです」

埼玉県関係者および埼玉地方連絡会議員

サントリーフーズ 埼玉支店 企画業務課長 石田 卓之氏(写真左)

「19年前から取り組んでいる大規模なキャンペーンを継承しており、地域の皆さんを巻き込んで人の心を動かしながら共に活動する素晴らしい取り組みです。地域住民からは、町がきれいになったと多大なる感謝を頂戴しています。県民の代表として、模範となるよう、今後とも活動を続けていってほしいです」



地域の宝を守り、残し、伝える活動で芽生える自立心や思いやり

協会会長賞 ^{あいのしま} 福岡県 新宮町立新宮中学校相島分校

玄界灘の沖合に浮かぶ人口300人余りの相島は、古くは万葉集にも詠われた歴史のある島だ。そんな町を見下ろす山の中腹に佇む同校では、昭和23年より、生徒が主体となって島の環境美化や自然保護、地域の保全に努める活動「相島BFC（ボーイズ・ファイヤー・クラブ）アクションプラン」が続いている。大火に見舞われ、島の文化財や家屋など島の宝が焼失したのを機に、生徒が自主的に初期消火のためのポンプ操作ができる取り組みを開始した。また、生徒が週4回、島を回って火の用心を呼びかける「夜回り活動」や、島の全世帯を回りながら防火ステッカーを配布し、高齢者を見守る「一斉夜回り活動」を、年1回実施。その結果、生徒は自分たちの住む島に興味や関心を示すようになり、自然環境を保護する「海岸清掃」をスタートさせた。さらに美しくなった島の魅力を観光客にアピールする「生徒による島ガイド」に自発的に取り組むなど、生徒たちには教育の原点である自立心がしっかりと根付いている。

福岡県新宮町立新宮中学校相島分校の皆さん
公益社団法人 食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 農林



福岡県新宮町立新宮中学校相島分校の皆さん

「賞があまりに大きすぎて実感が湧かないほど嬉しいです。これからはさらに多くの人たちに我々の取り組みを知ってもらえるように、もっと広めていく活動を行っていきたいです。また、この受賞を機に、小学校や地域とさらに連携を深めながら継続して取り組んでいきたいです」



福岡県関係者および福岡地方連絡会議員

コカ・コーラウエスト 環境・広報部担当課長 吉村 幸彦氏 (写真左)

「島の子どもたちが地域に根付いた素晴らしい活動を継続して行ってきたことが認められてたいへん光栄です。地方連絡会議員の立場からもうれしく思いますし、今後とも美化活動をはじめとする様々な環境活動を応援しながら、学校や地域、企業、行政が三位一体となった活動ができるよう協力していきたいです」

第14回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校一覧

最優秀校

- 文部科学大臣賞 岩手県 洋野町立宿戸小学校^{ひろの しゆくのへ}
- 農林水産大臣賞 山口県 田布施町立麻里府小学校^{まりふ}
- 環境大臣賞 埼玉県 新座市立新座中学校
- 協会会長賞 福岡県 新宮町立新宮中学校相島分校^{あいのしま}



優秀校 (6校)

- | | | | |
|-----|-------------------------------|-----|-----------------------------|
| 栃木県 | 宇都宮市立泉が丘中学校 ^{いづみがおか} | 長野県 | 上田市立北小学校 ^{きた} |
| 岐阜県 | 可児市立蘇南中学校 ^{かに そなん} | 三重県 | 津市立白塚小学校 ^{しらつか} |
| 広島県 | 福山市立内浦小学校 ^{うちうら} | 熊本県 | 水俣市立水俣第一小学校 ^{みなまた} |

優良校 (32校)

- | | | | |
|-----|--------------------------------|------|--------------------------------|
| 北海道 | 清里町立清里小学校 ^{きよさと} | 青森県 | おいらせ町立甲洋小学校 ^{こうよう} |
| 宮城県 | 白石市立白石第一小学校 ^{しろいし} | 秋田県 | 鹿角市立花輪第二中学校 ^{かづの はなわ} |
| 山形県 | 鶴岡市立由良小学校 ^{ゆら} | 茨城県 | 大子町立大子西中学校 ^{だいご} |
| 群馬県 | みどり市立笠懸東小学校 ^{かさかけひかり} | 千葉県 | 茂原市立新治小学校 ^{にいまる} |
| 東京都 | 大田区立馬込東中学校 ^{まごめひがし} | 神奈川県 | 小田原市立報徳小学校 ^{ほうとく} |
| 新潟県 | 糸魚川市立木浦小学校 ^{このうら} | 山梨県 | 身延町立久那土小学校 ^{く など} |
| 富山県 | 氷見市立西條中学校 ^{ひ み さいじょう} | 石川県 | 金沢市立泉野小学校 ^{いずみの} |
| 福井県 | 福井市森田中学校 ^{もりた} | 静岡県 | 富士宮市立貴船小学校 ^{きぶね} |
| 愛知県 | 名古屋市立天神山中学校 ^{てんじんやま} | 滋賀県 | 長浜市立富永小学校 ^{とみなが} |
| 大阪府 | 大阪府立摂津支援学校 ^{せつづ} | 兵庫県 | 神戸市立西舞子小学校 ^{にしまいこ} |
| 奈良県 | 吉野町立吉野小学校 ^{よしの} | 和歌山県 | 橋本市立紀見小学校 ^{き み} |
| 島根県 | 大田市立大森小学校 | 徳島県 | 吉野川市立種野小学校 ^{たねの} |
| 香川県 | 三木町立三木中学校 ^{み き} | 愛媛県 | 松山市立城西中学校 ^{じょうせい} |
| 高知県 | 三原町立三原中学校 ^{みはら} | 佐賀県 | 唐津市立第一中学校 |
| 長崎県 | 壱岐市立霞翠小学校 ^{い き かすい} | 大分県 | 大分市立八幡小学校 ^{やはた} |
| 宮崎県 | えびの市立真幸中学校 ^{まさき} | 鹿児島県 | 出水市立東出水小学校 ^{いずみ} |

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第14回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選出された学校を表彰する授与式が各都道府県で開催されました。授与式は、受賞校の校長室や体育館、県庁及び市役所、公共施設などの会場で、学校関係者を始め、行政、地連、報道機関各位が見守る中、和やかに行われました。その様子と受賞校の活動内容を一部紹介いたします。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

三重県 津市立白塚小学校^{しらつか}

「ウミガメが産卵しにやってくる海岸を自分たちの手できれいにしよう」と、平成11年から校区内の白塚海岸の清掃に取り組んでいる。全校児童を縦割り班に分けて、担当場所を決めてグループごとにごみを収集し、分別する年1回の地道な活動だ。児童たちはペットボトルや空き缶など資源ごみの多さを毎年実感する中、自分たちの住む場所は、自分たちで守ろうという意識が根付いている。長年にわたる活動なので、地域の認知度も高く、児童との海岸清掃を楽しみにしている住民の姿も。去年はアカウミガメの産卵が確認された。



「表彰式の前に、全校児童全員で校歌を斉唱するなど、たいへん活気に満ちた思い出に残る授与式になりました。今後も、ウミガメが産卵できるように地域の海岸清掃に取り組んでほしいと願っております」

＜授与式の出席者＞ ・三重県津市立白塚小学校の皆さん
・三重・岐阜地方連絡会議 田辺 廣一郎氏（大塚製薬株式会社）、宮地 義人氏（アサヒビール株式会社）、太田 雅也氏（ガイドードリンコ株式会社）



広島県 福山市立内浦小学校^{うちうら}

瀬戸内海に浮かぶ田島にある全児童数が10名の小規模な同校。青い海と美しい緑の豊かな自然環境を守るために、住民や企業、行政機関と連携して様々な環境教育に取り組んでいる。昭和53年から始めた「うしお祭の発表」活動は、地域の歴史や現状を調べた児童が劇にして地域文化祭で披露する取組みだ。この学習を通じてふるさとに愛着が湧いた児童は、空き缶ポイ捨て追放キャンペーンを展開、登下校時の空き缶拾いや海の清掃活動を行うことで、海を守ることは自分たちの命と暮らしを守ることにつながることを実感している。

「今回頂いた賞は、内浦小学校みんなの環境に対する気持ちをさらに高めるものになったと思います。学校を卒業しても、自分から進んでごみ拾いをして田島の環境が良くなるように努力していきます」

＜授与式の出席者＞ ・広島県福山市立内浦小学校の皆さん
・広島地方連絡会議 佐久間 正氏（キリンビバレッジ株式会社）

【優良校】受賞校32校のうち4校を抜粋紹介

宮城県 白石市立白石第一小学校^{しろいし}

白石市の事業「市内一斉小中学校ごみ分別学習作戦」活動の一環として、10年以上継続して取り組んでいる「アルミ缶回収活動」。児童会とPTAが協力しながら年2回実施、回収により得られた資金で車イスを購入し、福祉施設に寄付。アルミ缶を学校まで持参する住民もいるなど地域との連携も図られており、これまで贈呈した車イスは10台を超えている。



「表彰授与式ではメディア各社より取材を受けるなど貴重な体験をすることが出来ました。また、このような表彰側の立場で参加し、社会貢献の一翼を担っていることを実感しました。ありがとうございました」

＜授与式の出席者＞ ・宮城県白石市立白石第一小学校の皆さん
・宮城地方連絡会議 田中 勝美氏(キリンビバレッジ株式会社)

千葉県 茂原市立新治小学校^{にいはる}

学区が広く遠方から登校してくる児童が多い同校では、平成11年から通学路の清掃活動に取り組んでいる。「クリーン大作戦」と名付けられた年2回のこの活動は、児童会が中心になって進めており、主に自宅から学校までの通学路に落ちている空き缶などを登校班ごとに回収する作業。住民の協力体制も整っており、地域全体のごみの量が減少してきている。

「小規模な小学校ですが、環境美化活動に地道に取り組んでいます。表彰の対象になったクリーン大作戦は、10年以上にわたって続いている取り組みで、今後もぜひ継続していってほしいと思います」

＜授与式の出席者＞ ・千葉県茂原市立新治小学校の皆さん
・千葉地方連絡会議 新沼 敏裕氏(アサヒビール株式会社)、志田 浩司氏(キリンビバレッジ株式会社)

和歌山県 橋本市立紀見小学校^{きみ}

「車イスを寄付しよう」という目標を掲げて、20年以上にわたりアルミ缶回収に取り組む同校。あわせて、環境教育の一環で牛乳パックやプリンタのインクカートリッジ回収も実施。また、登校時、通学路に落ちている空き缶やごみを回収するクリーン作戦も展開している。住民からは「ありがとう」と感謝の声かけがあり、児童の活動の励みになっている。



「素晴らしい賞をいただき感謝しています。自分たちが行っているクリーン作戦などの環境活動を表彰してもらって嬉しい気持ちでいっぱいですが、これからも続けていきたいと思います」

＜授与式の出席者＞ ・和歌山県橋本市立紀見小学校の皆さん
・和歌山地方連絡会議 山田 龍生氏(和歌山ノーキョー食品工業株式会社)、伊村 正明氏(キリンビールマーケティング株式会社)

香川県 三木町立三木中学校^{みき}

“自分たちの町を自分たちの手できれいにしよう”と生徒会が呼びかけて、平成24年から町内の平木駅や新川などの清掃活動を行っている。毎回ボランティアを募っているが、自らの意志で取り組む生徒が多数参加するだけでなく、近隣の小学校の児童とも協力して活動するなど、広がりを見せている。地域の評価も高く、生徒の美化意識が向上している。

「今回の環境美化活動を通じ、地元ボランティアの方々との交流が図れ、登校時などには、地域住民とあいさつを交わすようにもなりました。今後は、参加人数を増やして活動したいです」

＜授与式の出席者＞ ・香川県三木町立三木中学校の皆さん
・香川地方連絡会議 近藤 雅英氏(UCC上島珈琲株式会社)、横山 雅一氏(サントリーフーズ株式会社)

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります！

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイすてストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?



ポイすてストップってなあに?



ホームページは
こちらから

まち美化キッズ

検索

<http://www.kankyobika.or.jp/kids>

